

平成26年度
事業報告書

平成26年4月1日から

平成27年3月31日まで

公益財団法人
タカミヤ・マリバー環境保護財団

概 況

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団は、平成23年6月10日に新公益法人としての認可を受けて以降、4回目の決算期を迎えました。

新公益法人の定款では、事業目的をよりわかりやすく、現実的な表現に改めておりますが、財団としての理念は、財団設立当時と基本的内容は大きく変わったところはなく、公益財団4年目の26年度も発足時より実施しております事業方針を変更することなく実施致しました。

公益目的事業

- I. 河川・海岸の美化推進事業
- II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護増殖事業
- III. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業
- IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあいに関するシンポジウム・環境教育
- V. 北九州市環境ミュージアムの運営

I. 河川・海岸線の美化推進事業

1. 市民参加による水辺環境美化事業

26年度は、財団主催、及び共催により、地域住民や小学校児童など、一般市民も参加しての河川・海岸線美化清掃事業を13回実施しました。

内訳は、紫川、大蔵川、金山川を中心とした年間7回の河川清掃活動。

小倉日明海岸、門司海岸、若松響灘海岸を中心とした6回の海岸線の美化清掃活動を実施しました。

2. マリバー1号による事業

マリバー1号は2トンパッカー式塵芥収集車で街宣設備を有し、乗務員1名により月曜から金曜までの毎日、北九州市内の海岸線での、市民への環境美化の呼び掛け運動、及び乗務員による清掃、ゴミ収集及び処理並びに広大な北九州市内海岸部に投棄される不法廃棄物の監視、担当部署への通報活動を続け、土・日祭日等にはマリバー2号とともに、河川愛護団体等の行う美化推進活動の支援、水辺環境美化への啓発を行いました。

平成26年4月1日から平成27年3月31日にかけて実施致しました内

容は次のとおりです。

① 事業実施期間

平成26年4月1日（火）～平成27年3月31日（火）

② 実施地域（マリバー1号巡回地域）

- ア. 脇田海岸エリア
- イ. 響灘エリア
- ウ. 戸畑・若松エリア
- エ. 日明エリア
- オ. 砂津・末広エリア
- カ. 太刀浦エリア
- キ. 門司港・和布刈エリア
- ク. 新門司北エリア

③ 事業内容

- (1) 北九州市内の海岸線パトロール（河川美化清掃・ゴミ持ち帰り啓発）
- (2) 水辺環境愛護団体等支援

④ 活動状況

(1) 北九州市内の海岸線パトロール

マリバー1号（中型収集車）により、北九州市域内の海岸線を巡回する事を目的とし、パトロールルート、乗務員の勤務スケジュール策定や巡回頻度の検討を行いました。

各エリアにつき月／2回から4回程度の巡回を行うことを、計画・実施いたしました。

(2) ゴミ不法投棄監視・海岸線護岸等の破損の監視

巡回を行う際に大型ゴミの不法投棄の監視、通報及び海岸線護岸の破損事故の監視、通報を行いました。

(3) 水辺愛護団体等支援

下記の通り、水辺愛護団体及び北九州市内の水辺に関する活動を行っている団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成26年	4月19日	紫川アユ放流祭
平成26年	7月27日	若松区響灘 大清掃
平成26年	8月24日	脇田釣り桟橋 漁港 清掃
平成26年	9月6日	八幡東区大蔵川 清掃
平成26年	9月27日	小倉南北 紫川 大清掃

平成26年	10月	4日	若松区響灘	大清掃
平成26年	10月	5日	金山川	大清掃
平成26年	10月	26日	門司区新門司	大清掃
平成26年	11月	9日	小倉北区紫川ハゼ釣大会	大清掃

⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただき、多くの協力を得られるまでになっています。

3. マリバー2号による事業

マリバー2号は北九州市内の中小河川の巡回が主になる為、軽ダンプ式塵芥収集車により、街宣設備使用し、乗務員2名にて、毎週5日、毎月2回の頻度で北九州市建設局の管理する市内49河川の巡回により、市民への環境美化の呼びかけ、乗務員による清掃ゴミ収集及び不法投棄、護岸施設等の損壊の確認・通報を行いました。

平成26年4月1日から平成27年3月31日にかけて実施致しました内容は次の通りです。

① 実施期間

平成26年4月1日～平成27年3月31日

② 実施地域

北九州市内河川流域

- 1 城内川
- 2 砂津川
- 3 神嶽川
- 4 紫川①
- 5 紫川②
- 6 小熊野川
- 7 長行山田川
- 8 紫川③
- 9 合馬川
- 10 紫川④
- 11 東谷川
- 12 立花川
- 13 井手浦川
- 14 母原川
- 15 茶屋川
- 16 志井川
- 17 村中川
- 18 大川
- 19 羽山川
- 20 清滝川
- 21 奥畑川
- 22 櫛毛川
- 23 相割川
- 24 竹馬川
- 25 朽網川
- 26 貫川
- 27 大野川
- 28 田原川
- 29 長野川
- 30 板櫃川
- 31 槻田川
- 32 天籟寺川
- 33 撥川
- 34 割子川
- 35 建郷川
- 36 中子川
- 37 金山川
- 38 新延川
- 39 白木川
- 40 黒川
- 41 金剛川
- 42 笹尾川
- 43 堀川
- 44 新々堀川
- 45 金手川
- 46 江川
- 47 坂井川
- 48 曲川
- 49 寺田川
- 50 原田川
- 51 相川
- 52 熊本川

る団体が主催するイベントへの出動を行い、ゴミ収集やマナー啓発・指導等の支援を行いました。

平成26年	4月19日	紫川アユ放流祭
平成26年	6月7日	戸畑区天籟寺川清掃
平成26年	9月6日	八幡西区大蔵川 清掃
平成26年	9月27日	小倉南区北区 紫川 大清掃
平成26年	10月5日	八幡西区 金山川清掃
平成26年	11月9日	小倉北区ハゼ釣大会 大清掃

⑤成果

ゴミの分別行動に見られるような市民意識の高まりに加え、マリバー号の活動20年以上という実績、近年での1号、2号合同事業によって市民に広く認知していただけるまでになっており、多くの協力を得られるまでになっています。又北九州市の水環境課との連携により、北九州市の河川環境の向上に寄与しております。

II. 水生生物の生態研究及び保護・育成事業及び海域の水産資源保護・増殖事業

この事業は、紫川の生態系の研究、アユの研究・保護、北九州市内でのメダカ・ホタルの保護及び、北九州市周辺海域の水産資源保護・育成を行う事業です。北九州市の豊富な自然環境の象徴として、小倉南区・小倉北区を流れ、響灘に注ぐ紫川があります。この川は、田園部と都市中心部を縦断しており生態系を考える上でも重要な価値があります。その中で、仔アユ放流につきましては、26年度も例年通り実施しました。

地元住民や小学生など多くの市民参加によって開催され、今では地域の環境保全のシンボルとして位置付けられています。また、アユは最も象徴的な指標です。当財団は過去長きにわたり紫川において、降下・遡上の状況について調査を行って参りましたが、26年度は、降下仔アユと産卵場所について調査を行いました。

1. アユの生態研究・保護・育成事業

4月に恒例となっております「紫川アユ放流祭」にて、福岡県より、ご協力頂いた福岡県産の仔アユ1万尾を放流しました。

また、26年度はそのアユの「産卵状況調査」と「降下仔アユ」の2項目について実施しました、今年度の降下仔アユ調査については、昨年度行われました、北九州市建設局の調査を踏襲して行いました。

アユの産卵状況調査は、河床に産み付けられた卵塊を箱メガネにて目視確認

した。初回の9月30日は卵塊の確認はなかったが、2回目の10月16日に確認され、無事に産卵していることが判明しました。

降下仔アユの調査結果につきましては、今年度の仔アユ流下量を110万尾と推定いたしました。

また、今年度も過年度のように、秋季の河川水位の低下がみられました。この水位低下により、堰越流や右岸側魚道へ流入する流れは非常に少なく、日によっては魚道へ全く流入しない状況にありました。この結果、河川を流下する仔アユのほとんどは河川水と一緒に取水口に迷入する結果となり、今年度取水口へ迷入した仔アユは全体の94%となった。一方、昨年度は比較的河川水位は高い状態が維持されており、その結果、堰越流や、右岸側魚道から流下した仔アユは全体の24%と推測されています。

以上の結果から、仔アユの降下時期に定期的な降雨等が発生した場合、河川水位の上昇に伴い堰越流や魚道から河口域への流下する仔アユは増加するものと考えられます。

2. メダカ・ホタルの保護

メダカ・ホタルの保護につきましても、市内各所で助成先団体を中心として、ご協力いただいているビオトープを中心としての調査や増殖事業を行いました。放流種につきましては、同一水系による種に限定する等、生態系に充分配慮し、遺伝子レベルで地域の固有種が守られるよう、場所・方法を選定して行いました。

3. 水産資源保護・増殖事業

北九州周辺の海域水産資源保護・増殖につきましては、海水魚の稚魚の放流を市内各所で行い、資源の枯渇を食止め、保護・増殖に努めました。特に生態系に配慮し、クロダイ、ヒラメなどの周辺海域の固有種を放流いたしました。

Ⅲ. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究・増殖、水辺の青少年とのふれあい事業を行う団体に対する助成事業

当財団では、市民や環境保護団体の皆様と協力しあい、より美しく、自然豊かな北九州市の水辺環境づくりに取組んで行くために「クリーン・マリバー・ネットワーク」運動を提唱しています。一人一人の力だけでなく、また一団体の活動だけでなく、大きなネットワークとして盛り上げていこうという事業です。このため、当財団では環境保全や水生生物保護などに関するPRや、事業活動を積極的に推進する一方、関係団体の活動にも資金援助や協力をさせていただき助成金制度を設けています。

この制度の愛称を“マリバーエイド”と呼び、当財団の趣旨に沿った事業の実施を目的として活動実績を有し、北九州市に所在を置く任意団体、又は有志の調査・研究グループ（自治会、子供会、学校を含みます。）を対象としております。今年度も55団体、56事業に対し助成を行いました。

平成26年度分類別助成事業

①河川環境美化・清掃事業及び河川愛護団体との協力、ならびに支援事業

- (1) 河川 北九州市内の河川（主として紫川）
- (2) 区間 北九州市内域の全区間
- (3) 助成団体 18団体
- (4) 合計助成金額 2,520,000円

②水辺の自然と青少年とのふれあい事業

- (1) 事業概要 キャンプ教室・釣り大会・その他自然と親しむ水辺でのイベント
- (2) 助成団体 14団体
- (3) 合計助成金額 1,970,000円

③水生生物の生態研究並びに保護・育成事業

- (1) 習性研究・遡上数調査
- (2) アユの保護・メダカ・ホタル飼育
- (3) 助成団体 10団体
- (4) 合計助成金額 1,070,000円

④河川・海域の水産資源保護・増殖並びに沿岸域の環境美化事業

- (1) 北九州市内の稚魚放流（主として黒鯛）
- (2) 北九州市沿岸域の環境美化・清掃
- (3) 助成団体 2団体
- (4) 合計助成金額 250,000円

⑤その他

- (1) 環境教育事業
- (2) 海岸線緑化他
- (3) 助成団体 12団体
- (4) 合計助成金額 2,146,039円

総合計 55団体 56事業
7,610,000円

IV. 河川及び海岸線愛護、水生生物の研究増殖、水辺の自然と青少年とのふれあひに関するシンポジウム・環境教育

この事業は、公1、公2、公3の事業内容をより、一般市民へ広めていくために開催するシンポジウム、及び同様の主旨での子供たちへの環境教育活動を行う事業です。

シンポジウムは、毎年1回市民に対して、環境保全の必要性を訴える啓発活動の一環として、毎回、環境に関するテーマを設定し、テーマに沿った特別ゲストパネリストとともに、一般市民の方、環境問題に取り組んでいる団体、現在、地域で子供たちに対する野外体験活動を行っている団体を招いて開催いたしております。今年度は特別講演として、森は海の恋人 理事長 畠山重篤氏の講演を行いました。

1. シンポジウム

◇日時：平成27年3月7日（土） 13：00～16：00

◇場所：北九州商工貿易会館 2F 多目的ホール

◇参加：約300名

◇行程

①開会

第一部

②理事長あいさつ、北九州市長あいさつ

③助成先紹介・目録贈呈・マリバー大賞発表

④大賞団体 活動発表

第二部

特別講演 畠山重篤氏「森づくりは、川・海、そして 未来づくり」

当日は、定員の300名が来場し、シンポジウムが開催されました。まず、第一部は、理事長、北橋市長の挨拶の後、財団の助成制度マリバーエイドの団体紹介、目録贈呈を行いました。続いて、マリバー環境大賞・特別賞が発表され、大賞は長年、海岸の清掃活動を続けている「われら海岸探偵団」に、特別賞に子供達の野外体験活動を支援している「キッズワーク」が選ばれました。その後、大賞に選ばれたわれら海岸探偵団の代表により、活動発表がありました。

第二部は、NPO法人 森は海の恋人の理事長であり、国連のフォレストヒーローズにも選ばれた畠山重篤氏により、「森づくりは、川・海、そして未来づくり」と題して講演が行われた。講演では、森に木を植えること、特に落葉する雑木林を植えていくことは川も守ることにつながり、最終的には海を守ることにつながることに、そしてそのキーワードが北九州にもゆかりの深い鉄であるという発表があった。又、子供たちに森・川・海つながりを教えることによって、子供たちの環境に対する意識が大きく変わってきたとのことでした。北九州は鉄の町であるにもかかわらず、鉄の自然環境への働きが余りクローズアップされておらず、今回の講演ではその鉄の成分の化学的且つ複雑な環境へ



の働きかけを分かり易く説明され、来場者は一様に深い感銘を覚えられていたようでした。

2. 環境教育

① 今町小学校自然体験教室

「ふるさとの川・紫川を守ろう」

日時 7月12日(土)、13日(日)

② 大蔵小学校自然体験教室

「大蔵川の水生生物」

日時 9月6日(土)

大蔵小学校と協力をして「大蔵川環境教育」

この事業は、授業の一環として、大蔵小学校の1～6年生の全校生徒が参加し、環境教育と地元を流れる大蔵川の清掃を行うイベントです。

川の清掃の前、大蔵小学校の生徒さん達に、環境ミュージアムのプログラムで環境について学んで頂きました。



V. 北九州市環境ミュージアムの運営

1. 利用者数

総来館者数は、平成 26 年度は 134,124 人（平成 25 年度 131,851 名、前年比 101.7%）と昨年を上回ることができました。団体については平成 26 年度 464 件（平成 25 年度 668 件、前年比 69.4%）と、大きく下回る結果となりました。市内外ともに来館数が減少していることから、団体での利用を促す対策を講じなければなりません。また、本年度については、九州発開催の全国餃子祭り in 北九州が開催されたことで大きな集客がありました。その他、毎年恒例の「未来ホテルデー」の開催や、昨年度より始めた「ちょいエコホリデー」など、当館の独自のイベントや、地域と連携した「東田まつり」や「世界一いきたい科学広場」を実施しました。

2. 自主事業

①青空学

今年度は青空学開講に向けた準備として、館長をはじめ、新日鐵OBや黒崎窯業OBなど、公害発生当時を知る方との意見交換や環境ミュージアムで保管している資料の整理を行いました。また、公害で廃校になった城山小学校の同窓会開催への協力など、市民・企業・行政それぞれの人・もの・情報を収集いたしました。

②未来ホテルデー（5/18）

本年度も東田地区の祭りである東田まつりと共催で実施。東田祭りが単日開催となったため、未来ホテルデーも同様に単日開催としました。市民団体の活動紹介をはじめ、参加者で作る手形アートや、映像祭の実施、エコ工作体験など、様々なイベントを展開し、3,637 名が来場されました。

③ちょいエコホリデー

ひとつのテーマに沿って子供から大人まで環境について考えてもらうきっかけづくりと、テーマに関わる団体の市民活動発表の場として開催した。8 月は「音」、11 月は「読書の秋」、3 月は「お菓子」をテーマに行い、合計 1,733 名の方が来館されました。

④多彩なイベント

夏休み宿題企画やクリスマスリース、もちつき・年越しそばづくりなどを実施しました。また、石鹸づくりや染物講座、料理教室などの生活に関する人気の高いイベントを継続して実施しました。その他にも、地域を活かした中央町ツアーや、東田 3 館連携イベントとして、好評を頂いているイベントの継続実施や新規企画など、新規顧客ならびにリピーター獲得につながるイベントの実施いたしました。

3. 地域との連携

①「ぎょうざサミット」への協力

本年度は2014全国餃子サミットが八幡東区役所主催され、開催場所が隣接する北九州イノベーションギャラリー芝生広場であったため、当館は餃子サミット開催記念として、正面玄関前エントランスにてテントを展開してのエコ工作や館内でも普段とは違う内容のワークショップを実施、関係者控室としての全諸室の貸出などで協力し、8,819名が来館されました。

②東田サマースクール

当館を含めた東田地域にある3つの博物館（北九州市環境ミュージアム、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリー）を連携させたイベント「東田サマースクール」を実施しました。夏休みの高学年児童を対象に4日単位で、いのちのたび博物館、北九州イノベーションギャラリーと当館の3つの施設で連携し、各館が1日ずつ担当して特色あるプログラムを提供した。楽しく遊びながら環境について学ぶ場を設け、参加者からも大変よい評価を頂きました。

③世界一行きたい科学広場

3館とSSH指定校、九州工業大学や北九州高専らと協同で「世界一行きたい科学広場 2014 in 北九州」を実施。本物の科学にふれる機会とその楽しさを伝えられました。当館は、水を使った「おもしろ実験」を実施。夏休みの自由研究のヒントになる実験を行いました。

④東田地域への協力

冒頭でも述べたが、「未来ホテルデー」を東田地域のお祭りである東田まつりと共催で実施しました。単日開催であったが、地域のお祭りへの協力は今後も続けて行きます。その他にも、八幡東区まつり起業祭の一環として行われる「八幡東田ウルトラ 25 時間駅伝」に連合チームとして参加。3館や八幡東区の企業との連合チームの連絡調整役の遂行、地域の美化活動として、毎年恒例の「社長公認堂々ごみ拾い」や、東田3館周辺を毎月第3水曜日に自主的に清掃する「5分間清掃」など地域と一体となった運営を行いました。

4. 利用促進・サービスの質向上、

①オーダーメイドのプログラム提供

受け入れ団体については市内外問わず、綿密な打ち合わせを行い、先方のオーダーに合わせた環境学習プログラムの提供を行ないました。また、継続実施し

ている、教育委員会主催の環境体験科の受け入れや、環境修学旅行、環境局主催の古紙リサイクルバスツアーやプラスチックバスツアー、行政視察など関係部署との連携を図り、円滑な対応を行ないました。また、学術連携として北九州市立大学で開講されている北九州学の講義の一部を今年度も担当いたします。

②環境学習コンシェルジュの設置

本年度より、環境みらい学習システム推進業務委託として、環境学習コンシェルジュを配置。環境学習における様々な問い合わせに対応するとともに、これまで蓄積したノウハウをもって北九州市内の環境学習ツアーの提案を行ないました。

③新たな施設利用

本年度は環境首都検定の表彰式をはじめ、第5ゾーンにて3R活動推進表彰の投票、港湾空港局の巡回展示や、市民団体と共同で絵画展を実施するなど、展示スペース内で有効活用し、より多くの方の目に触れる機会を提供しました。また、エコハウスでは引き続き、北九州市立大学との共同研究により、温熱環境や省エネ性能を実測・調査を行ないました。また、スマートコミュニティ創造事業の一環である、ダイナミックプライシングの住民説明会の開催を行ないました。また、お手軽小作やちょいエコホリデーなど、イベントでの会場として積極的に利用しました。その他、北九州市と本田技術研究所の共同実証である、日本初の燃料電池自動車による外部給電実験（ビークルトゥホーム）を行うなど、展示場としてだけではない幅広い利用を行ないました。

5. ガイドの育成

ガイドの育成として、北九州市における市民環境力の向上に寄与できるよう、様々な視点で研修を行ないました。化学、動植物、服飾、デザインなど専門知識を有する職員がその専門性をさらに活かした企画立案や発行物の制作などを行うことで、精錬された業務の遂行と効率化を図るとともに、その知識を共有し、専門でない分野についての知識向上に努めました。また、OJTとして北九州里山トラスト会議との協働で、河内地区における放置竹林の整備について、現場での活動と通してその重要性を学びました。高齢化社会への対応として、認知症サポーター養成講座の受講や森フォーラムへ参加しました。その他、近年問題になっているインターネットやSNSの利用に対するセキュリティ講習や、有事の際に対応できるよう救命救急講習の実施、その他、環境関連製品の最新情報の取得のためにエコテクノ2014への視察、市民が自ら行動を起こすことを促せるようコミュニティオーガナイズング研修へ参加しました。

6. 維持管理、安全管理、その他

重大な館内事故・事件等の発生はありません。スタッフによる日常点検のほか、定期点検等を確実にを行い、運営に支障を来す機器トラブルもなく、安心・安全な運営を行ないました。また、避難訓練や救命救急講習を実施し、有事の際の対応できるよう努めました。その他、設備の老朽化が顕著になってきており、不具合が多くなっているため、迅速な状況把握と対応を行っていきます。

7. 平成 26 年度事業計画(提案)の進捗状況

事業計画の内容	進捗状況
①ちょいエコホリデー（継続） 未来ホテルデー1回、ちょいエコホリデー3回実施	①左記の通り実施。
②料理1講座 対象を変え毎月実施	②親子女性、男性と対象を変えて19回実施
③3R促進関連講座 有料にて月3回実施	③紙すき、古布ぞうりづくりなど38回実施
④エコ生活講座 メニューを変えて12回実施	④せっけん講座、ハーブ講座、草木染めなど15回実施
⑤科学実験 年6回実施	④水の「おもしろ実験」、電磁石工作など、7回実施
⑥風呂敷講座 ガイド・サポーター協働で年6回実施	⑥5回実施
⑦エコツアー・グリーンマップ 年6回実施	⑦左記の通り実施
⑧青空学 検討および準備の年とする	⑧先の通り実施
⑨月替わりお手軽工作 内容を変えて毎月2回実施	⑨左記の通り実施
⑩幼児・親子向け講座 お話し会を試行、無料で毎月1回実施	⑩左記の通り実施
⑪短編映画制作・上映 26年度は企画立案、持ち込みについては適宜上映	⑪東田シネマに変えて5回実施
⑫ガイド講座 市民向けとして企画立案	⑫27年度実施に向けて左記の通り実施。
⑬こども環境リーダー	⑬27年度実施に向けて左記の通り実

<p>26年度は企画立案</p> <p>⑭参加者との協働菜園・グリーンカーテン作り</p> <p>26年度は企画立案</p> <p>⑮ナイトミュージアム</p> <p>26年度は企画立案</p> <p>⑯オリジナル商品開発</p> <p>26年度は企画立案</p> <p>⑰書籍「まちのインタープリタター」</p> <p>26年度は企画立案</p>	<p>施。</p> <p>⑭27年度実施に向けて左記の通り実施。</p> <p>⑮試験的に1回実施。</p> <p>⑯27年度実施に向けて左記の通り実施。</p> <p>⑰27年度実施に向けて左記の通り実施。</p>
--	--